

第14編 日本養豚学会（旧日本養豚研究会）の 創立とその活動

第1章 日本養豚研究会の創立

1. 創立の経過

日本養豚研究会は昭和29年から7カ年にわたって農林省畜産試験場において実施した「わが国における豚産肉能力検定の実施方法に関する基礎試験」が一応の結論を得て昭和34年から全国の実施にうつされた当時、豚産肉能力検定の実施についての全国的な打合せと残された細部の問題を研究することを主な目的として設置した「豚産肉能力検定研究会」が母体となったものであるが、その後5カ年を経て、わが国の豚産肉能力検定事業が軌道に乗ったのを機会に発展的に改組し、養豚全般にわたる研究会として昭和39年2月に発足した。

創設当初は正会員数353名、賛助会員数22団体・会社であったが、10年後の昭和49年2月末には正会員数約1,000名、賛助会員数45団体・会社に増加し、着実な発展を続けてきた。

2. 研究会の英文呼称と事務局

日本養豚研究会は、創設後約15年間はThe Japanese Society of Swine Husbandry Researchと称していたが、研究会誌に発表される会員の研究報告が欧文抄録誌に掲載されることになり、また海外関係機関との連絡が頻繁となってきたので一般的に理解され易いようにThe Japanese Society of Swine Scienceと改め今日に至っている。

研究会の事務局は、設立当初は農林省畜産試験場家畜部（千葉市青葉町）、次いで信州大学農学部（長野県伊那市外）、岩手大学農学部畜産学科（盛岡市上田）、（社）日本種豚登録協会（東京都渋谷区代々木）（この間、日本養豚学会に改組した）、東京農業大学農学部畜産学科（東京都世田谷区桜丘、平成12年度から神奈川県厚木市船子）へと移動し、これに伴って研究会誌（学会誌）の印刷所も変更された。

3. 事業の概要

本研究会の事業は、会則第4条に次の如く定められており（学会移行後の会則（後記）もほぼ同じ）、その目的達成に努力した。

第4条 本会はその目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 研究会等の開催
- (2) 機関誌「日本養豚研究会誌」の発行
- (3) 養豚に関する情報、文献等の蒐集および交換
- (4) 養豚に関する研究の促進および会員相互の連絡
- (5) 養豚に関する研究成果および技術の普及
- (6) 養豚に関する研究業績の表彰
- (7) 産肉能力検定事業に対する推進、協力
- (8) その他、本会の目的達成に必要な事業

1) 研究会大会の開催

昭和39年2月創立総会を兼ねた第1回研究会大会を浜松市商工会館において開催して以来、毎年2回開催し、昭和61年11月までの23年間に46回開催した。

春の大会は、だいたい関東6都県で会場をお願いしてきているが、最近は東京都または神奈川県内の関係大学に会場をお願いして開催している。秋の大会は、その他の道府県で会場をお引受け下さる場所をお願いして開催してきている。会場をお引受け下さった地元の関係各位にはその都度多大のご協力・ご援助を賜り、お蔭をもって毎回200～350名の会員の出席を得て盛大且つ有意義に開催されてきた。また、第10回大会からは大会委員長制によって大会開催に係わる諸準備と大会の運営をお願いしてきわめて円滑に実施されている。

第1回から第46回に至る大会開催の経過は表14.1のとおりである。

大会には毎回20～35題の研究発表があり、2日間にわたって熱心な質疑・討論が行われている。また、大会の都度講演要旨集を発行し、講演終了後に講演要旨は「大会講演要旨」として次号の会誌に掲載されるならわしとなっている。

特別講演は、開催地都道府県の畜産課長さんに当該県における畜産事情・養豚事情等についての講演をお願いし、またそのほか必要なテーマについて国内及び外国の専門家による講演を依頼してきている。

シンポジウムは、時宜に適したテーマについて話題提供をいただき、討論・追加が行われ、有意義な成果をおさめている。

なお第21回大会は創立10周年記念大会、第42回大会は創立20周年記念大会となっている。

2) 日本養豚研究会誌の発行

「日本養豚研究会誌」（略誌名、日豚研誌）は日本養豚研究会の機関誌として刊行し、会員に配布している。本誌は養豚に関する研究調査成果の発表、技術の普及ならびに会員相互の連絡

第14編 日本養豚学会（旧日本養豚研究会）の創立とその活動

表 14.1 日本養豚研究会大会開催一覧

回	開催年月	開催場所	大会委員長
第1回	昭39.2	浜松市商工会館	
2	9	日本ホルスタイン登録協会講堂	
3	昭40.3	埼玉県農林会館	
4	10	富山市城址公園 丸の内会館	
5	昭41.2	日本ホルスタイン登録協会講堂	
6	11	千葉相互銀行本店ホール	
7	昭42.2	栃木県、農林省畜産試験場飼養技術部	
8	10	山梨県民会館講堂	
9	昭43.2	東京農業大学	
10	10	鳥取県西部農協会館講堂	今井一郎（鳥取県中小家畜試験場長）
11	昭44.4	茨城県民文化センター	藤田千春（茨城県畜産試験場長）
12	11	鹿児島大学農学部	川原善之（鹿児島県養豚試験場長）
13	昭45.4	埼玉県畜産試験場	長谷部秀行（埼玉県畜産試験場長）
14	10	東京都農業会館	宮川正夫（東京都畜産試験場長）
15	昭46.4	千葉県農業会館	菅野保（千葉県養豚試験場長）
16	11	愛知県農林会館	松浦実（日本種豚登録協会愛知県支部長）
17	昭47.4	群馬県農業会館	大江正直（群馬県畜産試験場長）
18	10	岩手教育会館	藤島富嘉雄（岩手県畜産試験場長）
19	昭48.4	神奈川県箱根観光会館	山口甚三郎（神奈川県畜産試験場長）
20	10	旭川市公会堂	難波直樹（日本養豚研究会北海道支部長）
21	昭49.4	東京、ニッショーホール（創立10周年）	丹羽太左衛門（日本養豚研究会会長）
22	10	東京、全理連ビル	牧田専治（日本養豚研究会副会長）
23	昭50.4	茨城県民文化センター	福田勤（茨城県養豚試験場長）
24	昭50.10	松本社会文化会館	久保田建御（長野県畜産試験場長）
25	昭51.4	東京農業大学	鈴木正三（東京農業大学教授）
26	10	宮城県農業共済ビル	松本渡（宮城県畜産試験場長）
27	昭52.4	日本大学農獣医学部藤沢校舎	福島正次（日本大学教授）
28	10	姫路市市民会館	福岡真介（兵庫県畜産試験場長）
29	昭53.3	明治大学生田校舎	高橋直身（明治大学教授）
30	11	栃木会館	林田伸男（栃木県畜産試験場長）
31	昭54.4	麻布獣医科大学	松原利光（麻布獣医科大学養豚研究会会長）
32	10	鹿児島県、霧島国際ホテル	楠元薩男（鹿児島県畜産試験場長）
33	昭55.4	日本獣医畜産大学	村田富夫（日本獣医畜産大学教授）
34	11	千葉県、成田山第二信徒会館	益子正巳（千葉県養豚試験場長）
35	昭56.4	明治大学生田校舎	友田仁（明治大学助教授）
36	11	広島平和記念館	田代裕（広島県畜産試験場長）
37	昭57.4	東京農業大学	丹羽太左衛門（東京農業大学教授）
38	8	農林水産省畜産試験場	姫野健太郎（農林水産省畜産試験場長）
39	昭58.4	日本大学農獣医学部藤沢校舎	佐久間勇次（日本大学教授）
40	11	沖縄県労働福祉会館	渡嘉敷綏宝（琉球大学名誉教授）
41	昭59.4	東京農工大学農学部	熊谷哲夫（東京農工大学教授）
42	11	東京、野口英世記念会館（創立20周年）	丹羽太左衛門（日本養豚研究会会長）
43	昭60.3	神奈川県相模原市、国民生活センター	吉本正（麻布大学教授）
44	10	高松市、讃岐会館	大眉博（香川県畜産課長）
45	昭61.3	府中市、東京自治会館	大橋昭也（東京都畜産試験場）
46	11	山形県庄内市、庄内経済連ビル	富樫稔（山形県立養豚試験場長）

注：第47回以降（日本養豚学会に移行後）の大会については第2章表14.4参照

をはかることをもって目的とし、掲載を受付ける原稿は養豚に関する試験研究、調査等の原著論文、短報のほか本誌の目的に沿うと認められるもの。ただし、すべて自己の成績あるいは体験によるものに限るとなっており、寄稿は会誌編集委員会において審査し、採択原稿は原則として受付順に掲載されている。

当初3年間は年2回発行であったが、昭和42年～57年までは年3回発行となり、昭和58年以降年4回発行となって現在に至り、昭和61年度末で23巻4号、（ほかに別号1）が発行されている。

掲載された内容は原著論文、研究会大会における研究発表要旨、研究短報、シンポジウム話題提供要旨、特別講演要旨、受賞講演要旨、特別寄稿、総説・解説、資料等である。

なお、この間第11巻第2号（1974. 9）は創立10周年記念号、第21巻第4号（1984. 12）は創立20周年記念号となっている。

日本養豚研究会誌の印刷は、当初1年間（昭和39年）は千葉市の文友堂印刷所であったが、昭和40年9月から43年1月までは長野市の信教印刷株式会社に移り、さらに昭和43年2月から56年4月までは盛岡市の株式会社富士屋印刷所で行われた。そして昭和56年5月からは東京都荒川区の創文印刷工業株式会社にお願ひし今日に至っている。

そしてこの間、本誌は昭和41年12月20日に郵政大臣から学術刊行物として指定され、55年8月8日付にて本誌にISSN 0388-8460の刊行物番号が割り当てられた。また本誌に掲載している原著論文には第5巻第1号以降英文要約 Summary をつけているので、外国の抄録専門誌（例えば A. B. A. など）にも研究の要約が掲載され、国際的にも認められるようになった。

3) 日本養豚研究会賞の設定と贈呈

日本養豚研究会の発足以来、会員諸氏の養豚に関する研究発表は年毎に活発となり、養豚学術の進歩とわが国養豚の発展に寄与するすぐれた研究業績が続出するようになってきた。

これらのすぐれた研究業績を表彰し、さらに今後の研究の発展を期待するため、かねてから研究会賞（学会賞）設定の希望をもっていた本会々長丹羽太左衛門博士が「豚の繁殖および育種に関する研究」により日本農学賞、読売農学賞、農林大臣表彰等を受賞したことを記念して日本養豚研究会賞設定基金の寄付を申し出たことを受け、研究会は昭和45年（1970）4月の定期総会において表彰規定の制定（日本養豚研究会賞の設定）を議決し、表彰内規を定めた。そして、第1回の日本養豚研究会賞は昭和46年4月の定期総会において故栗原 武氏の「豚の多頭飼育の省力管理技術」に贈呈された。

その後、丹羽会長から基金の追加寄付が行われ、また本会々計の剰余金からも若干の繰入れがあり、研究会賞（のち学会賞）特別会計を設けた。また、元本会常任評議員、故栗原 武氏

のご遺族からの寄付金もこの特別会計に加えられた。

日本養豚研究会賞に関する「表彰規定」により授賞者は、毎年9月30日までに会員から推せんされた候補者につき表彰選考委員会において選考され、理事会で決定される。そして春の定期総会において研究会賞が贈呈され、受賞者は受賞講演・挨拶を行ない、その要旨は日豚研誌に掲載されることになっている。

第1回（昭和46年度）から第16回（昭和61年度）までの受賞者と受賞題目は表14.2のとおりである。

表14.2 日本養豚研究会賞受賞者一覧

回	年度	受賞者	受賞題目
第1回	昭和46	栗原武	豚の多頭飼育の省力管理技術
2	47	高橋明	人工乳による子豚の育成と豚の産肉性に関する研究
3	48	瑞穂当	豚精液の保存に関する研究
4	49	上山謙一・浅井孝康	繁殖豚および肥育豚に対する飼料給与方法に関する研究
		高橋正也	豚の飼育標準ならびに養豚飼料の栄養価に関する研究
		吉本正	マメ科牧草利用による豚の飼養とその肉質
5	50	波岡茂郎・柏崎守	SPF豚の作出に関する研究
		高杉五郎	豚に対する甘藷の乾燥、貯蔵、給与に関する試験
6	51	石井泰明	豚の分娩ならびに哺育技術に関する調査、研究
7	52	矢野幸男	豚の肉量および肉質の評価に関する研究
		古橋圭介	養豚飼料における未利用資源の有効利用に関する研究
8	53	丸茂富美穂	残飯、動物性油脂の有効利用と消化酵素、非蛋白態窒素の利用効果についての検討
			わが国における大型豚品種の性能ならびに雑種利用に関する先駆的研究
		松本廸夫	豚ふんの急速堆きゅう肥化に関する研究
9	54	宮嶋松一	ランドレースにおける外貌と産肉性
10	55	川上素行・五味一郎	ケージ方式による養豚技術の研究
		糟谷泰	豚精液の低温保存に関する実用化試験
11	56	長野鍊太郎	豚の損耗防止と肉豚の飼養管理法の改善に関する研究
		美斉津康民	豚の生態行動に関する研究
12	57	川井田博	パークシャー種の肉質に関する研究
		真田武	雌豚の繁殖生理と繁殖の実態に関する研究
13	58	丸山淳一	豚の性周期に伴う生殖器官の解剖組織学的研究
14	59	戸原三郎	豚の呼吸エネルギー代謝に関する研究
15	60	米田裕紀	(学術賞) 豚における自給飼料の利用に関する研究
		永田文吉	(功労賞) 鹿児島県におけるパークシャー種の改良と飼養技術の向上ならびに普及指導に関する業績
16	61	椎葉純一	(学術賞) ランドレースにおける椎骨数の遺伝と産肉性について
		笹原才治	(功労賞) 群馬県における豚の改良と技術の普及に関する業績

注：学会移行後の受賞者（第17回以降）については第2章，表14.6参照

なお、昭和58年11月に表彰内規の一部改正が行われ、従来の学術研究分野（学術賞）のほかに新たに技術普及の分野を対象とする授賞（功労賞）の項が加えられ、昭和60年度から適用された。

昭和62年度（第17回）から学会移行に伴い本賞は日本養豚学会賞（後記）となり今日に至っている。

4) 日本養豚文献集の発行

養豚に関する試験研究、技術の開発、普及等にあたっては、関係文献の調査、確認が必要であり、養豚の実務にあたっては既往の成果の活用は重要なことである。

一方、養豚研究の文献は年と共に多方面にわたって数多く発表され、既往の業績を渉猟、閲覧することは益々困難となりつつある状況に鑑み、本会は創立10周年記念事業の1つとして「日本養豚文献集」の刊行を企画し、昭和50年3月に第1輯を発行し、その後概そ5年間隔で刊行を続けている。

第1輯は明治34年から昭和47年（1901～1972）にわたる71年間の文献集（220頁）であったため非常な苦労であったが、幸い編集委員諸氏の努力と会員の協力、関係方面のご支援によって完成し、好評を得た。第1輯の刊行にあたっては、地方競馬全国協会、財団法人内藤記念科学振興財団（本研究会顧問越智勇一先生のお力添えによる）のご援助を得たことを記録して感謝の意を表す。なお第1輯は品切れとなったため昭和62年12月再版を発行した。

ひきつづき第2輯（昭和48～同53年、1973～1978、126頁）を昭和57年3月に、第3輯（昭和54年～58年、1979～1983、122頁）を昭和60年3月に発行した。第3輯（創立20周年記念出版）の刊行にあたっては財団法人伊藤記念財団から援助を受けた。

5) 国際的活動

国際的活動としては、①国際養豚獣医学会議IPVSへの参加（1976年以降）、②日華（中日）養豚研究会議の開催（1977年以降）、③国際養豚シンポジウムの開催（1983年）等積極的に活動した。（詳細は第13編、第2章、3.「養豚学術の国際交流」の項参照）。

6) 研究会支部の設立と支部活動

日本養豚研究会では、会則第3条第2項「本会は必要な地域に支部をおくことができる」および第3項「支部に関する必要な事項は支部細則によるものとする」により、表14.3の5支部が設立され、支部活動が行われた。各支部に対しては、毎年本部交付金が交付された。

7) 日本養豚研究会創立10周年記念行事、20周年記念大会の開催と創立以来の役員、名誉会員

日本養豚研究会は既述のように、昭和39年（1964）2月に創立以来会員一同の熱意と養豚界の応援に励まされて順調な発展を遂げ、会員数も増加し、活動範囲も拡大して、昭和49年（1974）4月には創立10周年記念行事を、同59年（1984）11月には創立20周年記念大会を開

表 14.3 日本養豚研究会各支部の概要

(昭和 59.12 現在)

支 部 名	設立年月日	正 会 員 数 (うち本部正会員数)	歴代支部長名	事 務 局 所 在 地 (責任者)
北海道支部	昭和 45. 4. 3	580 名 (41 名)	(初代) 平 賀 即 稔 (2代) 難 波 直 樹 (3代) 高 倉 正 臣 (4代) 平 沢 一 志 (5代) 渡 辺 寛 一 (6代) 奥 村 純 一	北海道立滝川畜産試験場 (米 田 裕 紀)
鳥取県支部	昭和 47. 9.13	47 名 (14 名)	(初代) 今 井 一 郎 (2代) 川 上 剛 延 (3代) 長 尾 喜三雄 (4代) 浅 井 孝 康	鳥取県中小家畜試験場 (清 間 通)
長野県支部	昭和 50. 2.13	123 名 (25 名)	(初代) 村 井 秀 夫 (2代) 久保田 建 御 (3代) 丸 山 澄 夫 (4代) 長 崎 等	長野県畜産試験場 (大 沢 保)
鹿児島県支部	昭和 52. 9.28	157 名 (28 名)	(初代) 宮 内 泰千代 (2代) 牧 角 一 栄 (3代) 福 元 守 衛	鹿児島県畜産試験場 (福 元 守 衛)
富山県支部	昭和 52.11.17	47 名 (19 名)	(初代) 長谷田 知 巳 (2代) 林 和 夫	富山県畜産試験場 (正 満 隆 義)

催した。

(1) 創立 10 周年記念行事

① 記念大会

期日：昭和 49 年 4 月 25 日，26 日

会場：東京都港区芝西久保明船町 18 ニッショーホール

内容：第 21 回研究会大会に創立 10 周年記念行事を加えて実施した。記念式典では功労者（田口教一，松下道夫，葉袋武保，(社)日本種豚登録協会）に感謝状，名誉会員に記念品贈呈。記念講演（招待講演，別記），祝賀パーティー

② 記念出版：創立 10 周年記念号の発行，日本養豚文献集第 1 輯（明治 34 年－昭和 47 年，1901－1972）の発行

③ 記念養豚講演会（招待講演会）の開催

デンマーク王立獣医農科大学前教授，日本養豚研究会名誉会員 Prof. Dr., Dr. h.c. Hjalmar Clausen により下記 2 題の記念講演が行われた。

1. 豚の改良と育種について Improvement and Breeding of Pigs.

2. デンマーク・ランドレース種の歴史と現状 History and Present Status of Danish Landrace Pigs.

なお、上記の記念講演は創立10周年記念大会（東京会場）のほか、全国3カ所（北海道、静岡、鹿児島）でも開催し、聴衆に多大の感銘を与えた有益な講演会であった。

（2）創立20周年記念大会

①記念式典

期日：昭和59年11月1日

会場：東京都新宿区大京町26 野口英世記念会館

内容：功労者表彰（敬称略）

（生存者）今井一郎、生駒博雄、川中 績、小春英世、首藤新一、曾我部 要、高橋 明、
福田 勤、松崎 格、牧田 フジ（旧姓篠田）

（物故者）栗原 武

感謝状贈呈：（社）日本種豚登録協会、（株）富士屋印刷所、（有）瀬戸広告社、佐藤鉄郎
名誉会員に記念品贈呈、来賓祝辞、祝賀パーティ

（3）日本養豚研究会創立以来の名誉会長・会長・副会長・名誉会員

(1964.2-1987.3)

名誉会長

故 田 口 教 一 (1966.2-1974.6)

会 長

故 田 口 教 一 (1964.2-1966.2)

丹 羽 太左衛門 (1966.2-1987.3)

副会長

丹 羽 太左衛門 (1964.2-1966.2)

故 福 田 紀 重 (1966.2-1974.4)

故 笹 原 二 郎 (1974.4-1984.4)

故 牧 田 専 治 (1974.4-1984.4)

瑞 穂 当 (1984.4-1987.3)

高 橋 正 也 (1984.4-1987.3)

正 田 陽 一 (1984.4-1987.3)

名誉会員（（ ）内は推せん年月）

故 佐々木 清 綱 (1966.2) 故 Hjalmar Clausen (1969.4)

第14編 日本養豚学会（旧日本養豚研究会）の創立とその活動

故 飯 田 吉 英（1966.2） 故 戈 福 江（1979.4）
故 蒔 田 徳 義（1966.2） 故 福 田 紀 重（1984.4）
故 北 本 弥三郎（1966.2） 故 笹 原 二 郎（1984.4）
故 永 田 厚 平（1966.2） 故 牧 田 専 治（1984.4）
故 伊 藤 祐 之（1966.2）